

## 編集後記

『真実心』第四十一集ができあがりしました。元号が令和に改まった今年度も宗教講座は例年通り行われ、貴重なお話を伺うことができ、意味深い学びを得ることができました。講師の先生方に感謝申し上げますとともに、講座を聴きに来て下さいました皆様に感謝申し上げます。

ここに掲載させていただいたご講話を振り返ってみたいと思います。

「想いを形に―対人支援の現場で見えたこと―」というテーマで、臨濟宗妙心寺派長慶院の住職である小坂興道先生のお話を伺いました。先生の行っている主な二つの活動である東日本大震災の被災地支援「わらべ地蔵を被災地へ」と「京都自死・自殺相談センター」の紹介とその活動を通して先生が感じ取られた想いについて語っていただきました。被災地支援のお話では、時間が経つにつれて変化する被災地の方々の複雑な思いに寄り添って来られた様子が、そして、相談センターでは死にたい気持ちを死にたい気持ちのまま

受けとめる、しんどいならしんどい、死にたいなら死にたいと言ってもいい場所を作れるようにと考えているという言葉が心に残りました。

「絵本で育む豊かな心」という演題で、花田睦子先生のお話を伺いました。絵本とは、読んでもらう本であり、読み手と聴き手が一緒に楽しむ本であること、感じ取り方は色々で正解は無いこと、絵本を子どもたちと読みあっているだけで、子どもたちの中に豊かな心が育まれていき、心が動けば動くほど豊かになっていく、そして豊かな心とは、優しさがわかり、憎しみがわかり、傷つくことがわかり、色々な感情を体験し理解できることではないかということ、実際に絵本を読み聞かせていただきながら私たちに教えて下さいました。

「現代社会に仏教は必要か?—ダライ・ラマ14世の思想における科学・共苦・経済—」という演題で、辻村優英先生のお話を伺いました。演題に挙げられた問いを持つようになつたきっかけと、そのことがチベット仏教の最高指導者ダライ・ラマ14世の思想を研究する動機となつたと語られます。ダライ・ラマ14世の思想の中の科学、共苦、経済について

お話しされ、最後に次のようにおっしゃいました。現代には現代のパラダイムや社会的・文化的状況があり、それに影響された苦しみがあり、その苦しみを望まない限り、その苦しみにどのように対処するのか、その方法を見つけ出すうえで、仏教の考え方は現代社会において必要であると演題の問いの答えを下さいました。

「第二の誕生」という演題で、高田正城先生のお話を伺いました。人間には一生の間に二回の誕生がある。一回目はお母さんのお腹から生まれる誕生ともう一回は苦しみや悲しみの底から、様々な出会いをもらって、さらに大きな命に目覚めて行くという第二の誕生があると、六人の人の「出会い」のエピソードを力強くお話になりました。そして、そのお話を通じて、苦しいことや悲しいことの中にこそ、かけがえのないひととの出会いがあり、本当に大切なもの、本当の人間となるための糧があるのだということを教えてくださいました。どのエピソードも聴く者の心を強く動かすものでしたが、特に二つ目に「あるある ある」という題で語られた「中村久子」さんという女性のお話が強く心に残りました。その中で、「南無阿弥陀仏」とは、「自分自身をしっかり見つめながら、二度とないあなたの人生を生き生きと生きていって下さいよ」という仏様の願いが込められた言葉です

と伝えて下さいました。

私たちも仏様が願ってくださっているように、少しでも自分の人生を見つめてしっかりと生きて行きたいものです。ここに収録させていただいたお話を通して、自分の人生を見つめていける出会いのきっかけとなることを願います。





